

# 経営比較分析表

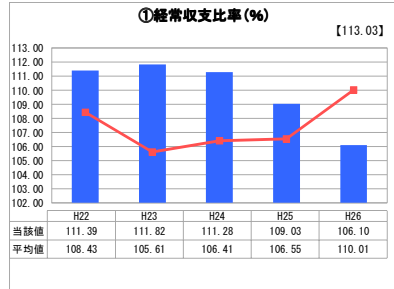
千葉県 南房総市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	78.78	72.20	3,790

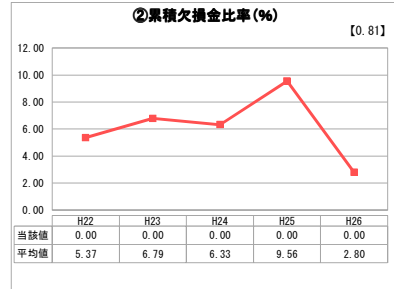
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
41,034	230.14	178.30
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
29,442	118.83	247.77

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

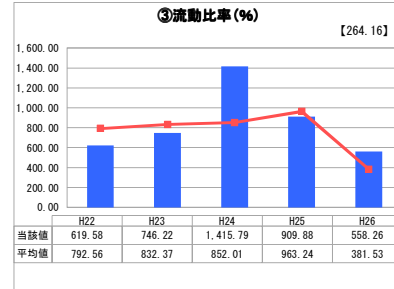
## 1. 経営の健全性・効率性



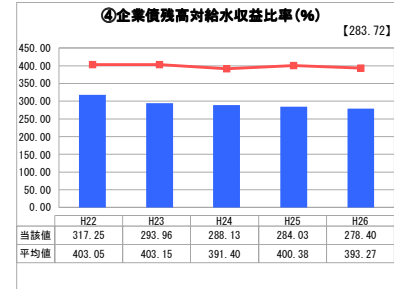
「経常損益」



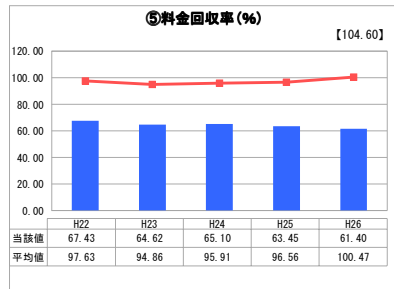
「累積欠損」



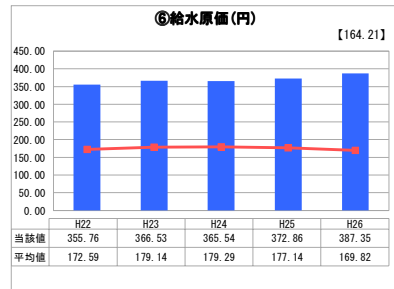
「支払能力」



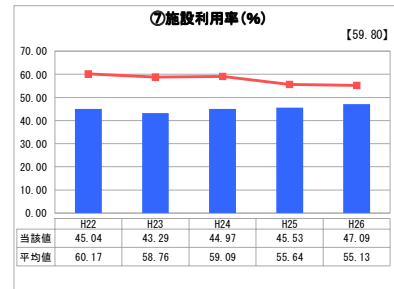
「債務残高」



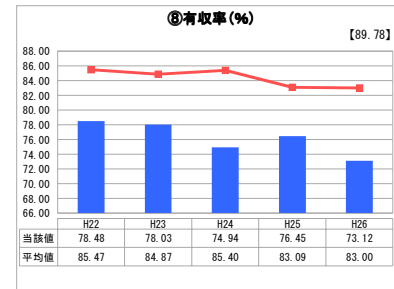
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

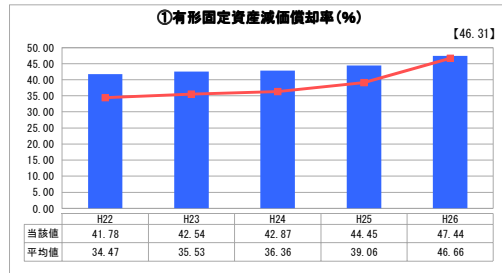


「施設の効率性」

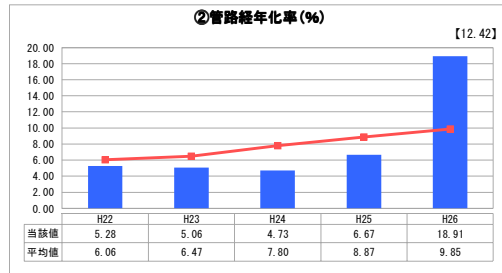


「供給した配水量の効率性」

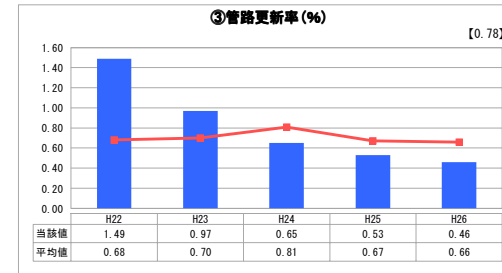
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

毎年黒字を計上しているものの給水人口の減少から給水収益も減少してきており、これにより料金回収率が減少傾向にある。  
給水原価が類似団体の平均を大きく上回っているが、費用の50%以上を減価償却費と浄水の受水費で占めている。これらの費用は給水人口は減少しても給水区域は変わらないことから現行の施設を維持しなければならないことや、半島の先端という水源に乏しい地理的要件からも浄水の受水は継続していくことから、今後の減額は見込めない。  
料金回収率が60%台であるにも関わらず黒字を計上できているのは、他会計からの補助金によるものである。  
以上のことから、経営の健全性のためには、補助金への依存、給水収益の減少、老朽施設管路の更新財源の確保が課題となってくる。

### 2. 老朽化の状況について

平成26年に管路の経年化率が12%も上昇しているのは、昭和49年創設の管路が同時期に耐用年数を超えたことによる上昇で、この現象は平成29年にも表れることから、管路の経年化率はさらに悪化していく。  
また、法定耐用年数を大きく超えた石綿セメント管が残存しており、現在管路の更新を進めているが老朽化した浄水施設の更新も同時期に進めていることから、管路更新率はここ数年低く抑えられている。

### 全体総括

人口減少による給水収益の減少が見込まれている中で減価償却費や受水費などの費用抑制は見込めないことから、収支の悪化は避けられない。  
有収率の向上のためにも、老朽化した管路の更新は急務であり、市の一般会計からの補助金収入の継続が不透明な中で、将来の更新需要における財源確保のための経営の効率化が今後の課題である。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。